

令和4年度第2回「OPEN！みんなで話そう！やまさき市長とともに」概要

日 時	令和4年10月29日（土）13：00～14：30
場 所	宝塚市立教育総合センター 小会議室2・3
テーマ	「部活動の地域移行について」
出席者	市民13名
	山崎市長、教育委員会職員5名、市民交流部職員5名

1 開会

- (1) 市長挨拶
- (2) 本日の流れについての説明

2 市民と市長との意見交換

- (1) 教育委員会によるテーマの説明（20分程度）
- (2) 意見交換

- ア 【市民】（部活動を行う）場所は学校か、学校外か。
- イ 【教育委員会】平日・土日ともに学校と考えている。
- ウ 【市民】3年後の完成形として、学校外のクラブチームに属することは物理的に無理だと思う。中学校で部活をしている生徒全員を収容出来る学校外の施設は無い。
- エ 【市長】今は学校で部活動を行っているが、地域移行した場合、一つの学校だけではなく、複数の学校の生徒がその地域に行くこともあり得る。例えば、小学校でスポーツクラブに入っていてそのまま続けたい子は、そのスポーツクラブに行くことになり、そのスポーツクラブのホームグラウンドを利用することもあり得る。学校を最初のステージとして、まずは部活動から移行していき、よりよい形になるよう検討していく。学校の体育館を利用しながら進める。学校を全く開放しないわけではない。
- オ 【市民】8～9割の生徒は、（部活動の）場所が学校となる。指導者だけを他から呼ぶという形が主体になるのでは。
- カ 【市長】学校の部活動がスタートとなるので、そういう形になると思う。
- キ 【市民】現状、ある中学校でサッカー部に入りたいが、（部員数が少なく）出来ないため、他のスポーツをするという話を聞いた。宝塚市の方針で、来年度からモデルケースで実施していくと説明があった。うちのチームも受け皿として任せていただけるのか。
- ク 【市長】この場で直接お願いすることは出来ないが、登録制度にするので、まずは積極的に登録していただきたい。子ども達が希望するスポーツや文化は沢山あるが、全地域に指導者がいるわけではないので、受け皿となっていただけなのは、ありがたい。
- ケ 【市民】協議会の中に入ることは出来るのか。
- コ 【教育委員会】人選を進めているところ。登録制度については各団体にお声がけする。

- サ 【市民】(部活動が)「教育課程から外れる」という話があった。地域移行した場合、学校の部活動は、宝塚市が子どもを育てる環境では無くなるが、子ども達の育つ場として、地域の指導者もしくは地域の団体に、部活動の教育的意義をどこまで求めるのか、現時点のイメージを聞きたい。求める場合、それだけの質が必要になる。人を探すのも大変。お金の話も絡んでくる。地域移行については、切り口を変えるといくらでも課題が出てきて、山積みだと思う。もう1点質問。枠組みが決まれば、受け皿となってくださる方は心強いが、実際はそんなに全て上手くいかないと思う。協議会について、学校教育の中で、行政はどの位置づけでこの活動を進めるのか。
- シ 【市長】部活動で培うものは、子どもにとって大きい。仲間との心の通い合い、協調、耐え抜く力など、子ども達を育むという意味では大切なので、今後も提供していきたい。また本市では、地域移行した場合の指導者に対する「育成指標」を作っている。これだけ詳細な育成指標は全国で初めて。この指標を心に留めて指導していただくため、まずは登録制にし、指標に納得された方に子ども達を育成してもらう。協議会の位置づけについては、教育委員会として参加する。
- ス 【市民】部活動が学校教育では無くなった場合、予算はどうなるのか。ある程度の受益者負担は分かるが、市や国で予算取りをして、子ども達のやりたいスポーツや文化が出来るようなシステムを整えてもらいたい。
- セ 【市長】予算に関しては、国から詳細な決まりが出ていない。内容が固まれば、協議会などを通じてお知らせした上で、地域移行を進めていきたい。
- ソ 【市民】地域移行が出来ない地域が出てきた場合、その部活動は引き続き学校で行うのか。市が地域外から指導者を探してきて地域移行を進めるのか。
- タ 【教育委員会】希望する部活動が出来ない場合は、クラブチームに入る、指導者が見つければ指導していただく、違う学校に通っていただくなど、色々な方法の中から一番良いものを子ども達に提示していきたい。
- チ 【市民】指導者が見つからない場合、他校に行くのは難しいと思う。宙ぶらりんな生徒が出ないようにする救済措置はあるのか。
- ツ 【教育委員会】子ども達のニーズや、学校の先生達の実際の状況を把握し、段階的に進めていく中で、そういったことが無いように検討していく。
- テ 【市民】場所を学校外にすることは、無料で使える学校内の施設があるのに、有料で学校外の施設を借りるということ。移動時間や交通費も発生する。そういう費用を抑えるためにも、極力学校ですべきだと思う。
- ト 【市民】地域移行に対して熱い思いを持っているところと、まだこれからというところと様々だと思う。多様性という面から、子ども達が望むものを考えていってほしい。
- ナ 【市長】子ども達の中で、希望する部活動が進学先の学校に無いことがあるかもしれない。色々なスポーツや文化を子ども達に提供出来るよう、整えていきたい。例えば小規模校では、団体競技は部員が少なければ難しいので、人数が集まるような良い方法を考

えなければいけないと思っている。

- ニ 【市民】平日も土日も指導出来るなら問題無いが、平日は学校の先生、土日は外部の指導者が教えるとなると、先生と指導者のズレが出てきて、部活動を辞める子どもが増えないか、勝利至上主義にならないか懸念している。
- ヌ 【市長】勝利至上主義だと、子ども達に無理を強いたり、度が過ぎた指導になることもあり得る。そうならないよう、育成指標を基に指導者の資質を問いたい。また、先生と指導者の指導が違うことは確かにあると思う。外部指導者は専門的だが、学校では未経験の先生が指導することもある。その差はあるが、地域移行後も、学校と指導者の間で密に情報交換と意思の疎通を図りながら、気を付けていきたい。
- ネ 【教育委員会】先進地でも同様の課題があり、学校の先生と地域の指導者が、定期的に連絡を取り合って進めている事例もある。そのような形で進めていきたい。
- ノ 【市民】やる気のある方には、移行期間から、平日も「見守り」という形で入ってもらいたい。特にスポーツは怪我も付き物。見守りに入ってもらおうと保護者も安心。
- ハ 【市長】部活動の地域移行とは別に「コミュニティスクール」を進めている。地域の方々の力を借りて、皆で子ども達を育みましょうという取り組み。地域の特性を生かして、子ども達をどのように育むかを考えるため、地域や現状に合わせた動きが出来る。コミュニティスクールに参加していただくことで、見守りに入ってもらえると思う。
- ヒ 【市民】このまま学校の部活動をベースに話が進んでいくのか、それだけでは無いと思う。例えば、バドミントン部はメジャーな部活では無いけれども、子ども達にとって出来るスポーツが増える機会と考えると、話を除く必要も無い。文化も同じ。部活動という見え方を、違うところに持っていくところに終始する必要は無いと思う。今見えている「学校教育の中にある部活動」を誰が担うか、ということだけでは無いと思う。そうすると、その次を考えるべきポストが必要になる。先日、中央公民館でコミスクの説明を聞いてきたが、その場で部活動の地域移行の話は出てこなかった。同じく参加していた委員や先生は、部活動を受け皿に期待されているとは思っていないと思う。部や課で進めると、それぞれの強みは出るかもしれないが、子どもやスポーツ活動、文化活動に関する特定のエリアセクションだけ進めると、話が繋がらず状況が見えない。特にスポーツは中学校に入る前からやっていて、小学校との連携もとらないといけませんが、ほとんどの保護者は中学校でその部活動が無くなることを知らない上に、説明も無かった。幅広い問題に取り組んでいることを改めて意識した上で、市民には何が出来るのかという話になる。育成指標も素晴らしいとは思いますが、これをチェックするのが行政なら、満たさなかった指導員に対して研修をしたり、資格を剥奪したりするのか。
- フ 【市長】コミスクや部活動の地域移行も同じく、教育の話である。今日、本来であれば、ここは教育長が座る席だが、あえて市長の私が今回のテーマを選んだのは、教育委員会だけではなく市長部局も一緒に、市全体で関わっていく覚悟で進めている。
- ヘ 【市民】今までの話を聞いて、机上の空論が行われていると感じている。まずコミスク

は、運営する土壌が全く出来ていない。先生達は、地域の人にどのようにお願いしたらいいのか分かっていない。地域の間人は、参加する能力も無ければ、どういった形で参加すれば良いのかも分かっていない。理想形はあるが、現状出来ていない。また、スポーツ推薦で高校に進学する時に、どのクラブチームでどのような成績を収めたかが大きく関わってくる。勝利至上主義もある意味考えていかないといけない。クラブチームの中でも、すごく強いチームもあれば、とりあえず体を動かそうといったチームもある。ただ単にクラブチームがあれば良いわけでは無く、その子供達が何のためにクラブをしているか、丁寧に見ていかないと運営は難しいと思う。もう1点。学校の部活は18時頃に終わり、その後塾に行けるが、地域移行をした場合、移動時間がかかり部活動の終了時間が遅くなるため、(授業終了後に)塾か部活かどちらかを選択することになる。クラブをしている子ども達が、色々な事情で活動出来なくなった時、その後どうなるかを想像しているのか。地域特性もあると思うが、今の子ども達は家庭学習をほとんどしない。大学全入時代になり、勉強しなくてもどこかの大学に入れることを、子ども達も十分知っている。また、オンラインで世界中の人とゲームをしていて、個人で完結する問題ではないため、ゲームを止められず、頭痛や不眠など、保健室指導が多い。特別支援学級の人数もすごく多い。部活動をしている8割前後の子ども達が、塾かクラブかという選択になったとき、その先に想定される問題が凄く大きいということを知ってもらいたい。もう1点。「多様なスポーツ」ということが議論に挙がっていたが、多様というのは運動のバラエティだけではない。特別支援学級の子ども達が放課後に行く場所は、デイサービスしかない。他の子はクラブ活動という居場所があるが、同じ生徒でも放課後の居場所がない。クラブをやりたくても、やる場所が無い。そういった、今まで見ていないところも、丁寧に見てもらいたいと思う。

- ホ 【市長】 コミスクに関して、いきなり地域にお願いするのは難しいため、まちづくり協議会に教育委員会のメンバーが出向いて説明をしている。その中で、子ども達をどのように地域で育てていくかという意識も合わせながら、根気よく進めて、地域の方々の理解を深めて、学校の先生にもその思いを持ってもらって、邁進しているところ。
- マ 【市民】 コミスクの参加メンバーは、コミュニティの方と全員同じ。時間がある年配の方が多く、保護者やPTAが望む活動は無理。大事なのは、時間のある方ではなく、働いている世代や時間が無い世代へのアプローチ。自分たちの子育てを学校に任せるのではなくて、地域で育てるためには自分たちの時間も削る覚悟が必要。強制は出来ないが、その世代に対する土壌の醸成をもっと啓発すべきだと思う。
- ミ 【市長】 コミスクにはPTAも入っており、意見を頂いている。高齢の方が担い手になっているのは、宝塚市だけではなく、色々な地域の問題。コミスクを通じて、後継者になれる方との関係性を築きたいと思っているが、強制はしたくないので、協力出来る範囲でやっていただきたいと思う。コミスクも始まったばかりで、最初から理想的なものが出来るとは思っていない。アップデートしながら形を作っていく中で、一番は、子

ども達がどのように楽しく育まれていくかだと思っている。また、勝利至上主義に関しては、頑張っって良い成績を収める子を否定するつもりはない。指導者の成績にするために、行き過ぎた指導で子どもに無理をさせて良い成績をとらせる形は、子どものための部活動ではない。

ム 【市民】あるクラブに、市が管理して受け皿を一つずつ作っていくのか、事務局を何個も増やすつもりなのか、どちらか。

メ 【市長】市から一つ一つのクラブにお願いしていく。

モ 【市民】地域移行後、他校の生徒を入部させることも可能なのか。

ヤ 【教育委員会】土日の移行という言葉が先行していて、初年度は土日しか移行しないという風に聞こえるが、「土日からでも」取り組んでいこうということ。見守りといった関わりは、平日からでもしていただけたらというのが本来の主旨であり、それは可能。

ユ 【市民】校区外の生徒が、進学先で地域移行した部活に入部することが出来るのか。

ヨ 【教育委員会】可能。イメージとしては、小学校のクラブチームと同じ。6年生でチームを卒業して、中学校のクラブ活動に移っていたが、地域移行をして地域で受けていくのであれば、引き続き活動出来る。小学校の中で線引きが無ければ、そのルールの中で運用していただけたら。

ラ 【市民】来年度から実施していいのか。

リ 【教育委員会】今の部活動から引き抜きのような形になると、一方では部活動の存続が難しくなる。それは小学校の中でも一定のルールがあると思う。運営協議会の中である程度のルール作りはしていくが、基本的に校区の縛りは無い。協議会で決めていくことなので、今この場で良いとは言えない。

ル 【市民】地域移行は教員の負担軽減や質の向上に役立つと思う。1点質問。指導者の登録制度は、スポーツ団体の推薦が必要か、個人でも申込可能か。

レ 【市長】個人で申込可能。

ロ 【市民】「部活動を地域で」という発想では無くて、地域で子ども達をよりよく育ていくという発想を持っている。親や子ども達のニーズが多様化しており、もっとスキルアップしたい子もいれば、他の部活動と兼ねていてスポーツに親しみたいという子もいる。様々なニーズに対し、地域としてどのように指導していくか悩んでいる。また、小学校6年生が進路を決める時期で、出来れば地域で続けてもらいたいが、入っても土日の部活がどうなるか分からないため、親も子どもも不安に思っている。この3年間、大人からすると移行期は仕方ないと思うが、子ども達にとっては一度しかない貴重な時期なので、大切にしたいと思っている。

ワ 【市長】以前、小学校のバレーボールチームの子達が、中学校でも同じメンバーで続けたい、試合を出来るようにしてほしいと言っていた。様々なニーズに対して、どのように対応していくかが、私たちのこれからの課題だと思う。逐一子ども達の思いを聞きながら形作っていきたい。ご協力をお願いしたい。

- ヲ 【市民】柔道は、全柔連の中で外部指導の資格や指導者講習会があり、指導者の資格を格付けしている。指導員をなるべく増やして待っている。
- ン 【市民】地域に移行すると、受け皿が整っている場合もあれば、色々な事情で参加出来ない子どもも出てくると思う。そういった子ども達のフォローも、学校で出来れば一番良いと思う。行政としてそういう関わりを持っていただきたい。
- ア 【市長】移行だけではなく、そうではない子ども達の見聞も聞いていきたい。
- イ 【市民】宝塚市では、1クラブにつき一人大人が付いていないとクラブ活動をしてはいけないという仕組みになっているか。
- ウ 【教育委員会】基本、指導者がずっと側にいるというのが望ましい形だが、教員もその場にずっといられるわけではない。
- エ 【市民】今の安全基準が高過ぎると感じる。もっと緩和しても良いのでは。昔は生徒だけでやっている場面もあった。グラウンドや体育館に最低 1 人大人がいれば活動して良いなど、それぐらい緩和すれば、教員の負担も減るのではと思っている。
- オ 【市長】緩和は必要だが、見ている大人がゼロというのも問題。目が届く範囲内であれば活動出来るなど、子ども達に安全な形で、柔軟に考えていきたい。
- カ 【市民】サッカーやバスケットなどの団体競技では、試合の時にレギュラーメンバーを決めないといけないが、土日しか見ていない指導者では決められないと思う。指導者が（メンバーを）決めるのであれば、週 3 回など、もう少し日数を増やした方が良い。学校の先生と指導者が 2 人いるのは、一つの船に船長が 2 人いる状態で危険。メインコーチ、サブコーチをはっきりさせた方が良い。
- キ 【市長】そのクラブ活動の中で、実際どのようにやっていくかを考えていきたい。

3 閉会

- (1) 市長挨拶
- (2) 事務連絡（アンケートの協力依頼）

以上